



IV. History

沿革



A historical black and white photograph of a large industrial factory interior. The structure is dominated by a complex wooden truss system supporting a high ceiling. The floor is filled with various pieces of machinery, including what appears to be a large lathe or mill in the foreground. The lighting is bright, likely from large windows on the right side of the frame. The overall scene depicts a busy manufacturing environment from the late 19th or early 20th century.

1915-40

Company History

社 歴

2月15日

山本集一の個人経営で山本鐵工所を広島県庄原市東城(旧比婆郡東城町)に創立。

鑄物の製造から機械設備を整え発動機、製材機の修理から製造に進む。



創業者 山本集一

1915年、当社の前身である「山本鐵工所」を広島県庄原市東城町に創立しました。当初は家庭用の鑄物製品を生産していましたが、やがて発動機や製材機の修理、そしてその製造を始めることになったのです。

山陽中央水力電気(株)の発電工事が開始され、ダム発電所工事に多数の外国製さく岩機が使用されており、修理部品の補給からさく岩機の製造に着手。



1930年代 三菱佐渡鉱山の様子

帝釈川、成羽川で水力発電所ダムの建設が着手されました。当時としては珍しい機械掘削が行われ、多くの外国製削岩機が使用されました。その修理や部品の製作を引き受け、技術を取得していきま



した。当時、殆どが外国製だった削岩機の国内生産を決断。苦心の試作を経て、生産を開始しました。

工場を拡張、設備を増設してヤマモト式さく岩機の製造・販売を始める。

外国製品をモデルに国産化し、三菱鉱業吉岡鉱山で試用の後、三菱鉱業全山、日本鉱業、三井鉱山・住友鉱山、明治鉱業・藤田鉱業、北海道炭鉱汽船、九州炭鉱汽船のほか、鉄道土木にも採用される。熱処理技術はドイツから専門技術者を招聘、技術革新を成し海外は三菱商事が総代理店となり発展。

CA-7ピックアップハンマー他生産。

1915

大正4年

1919

大正8年

1927

昭和2年

1930

昭和5年

業 界 歴

1914

足尾銅山
足尾式3型さく岩機を開発。

1917

日本火薬、ダイナマイト生産。

1918

古河鉱業設立。

1921

京鋼材(三菱製鋼)、中空ロッド生産。
帝国火薬(日本油脂)、無煙火薬生産。

1928

大成さく岩機設立。

清水トンネル(大正7年～)。

製 品 歴



7Lドリフター



CA-31ストーパー



CA-7ピックアップハンマー

Column 創業当時のカタログ

1936年(昭和11年)10月、昭和天皇の江田島海軍兵学校行幸に際して、YS-49ライトドリフターが天覧に供されました。

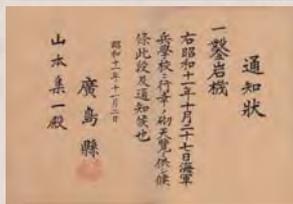
その当時の製品カタログが現在も大切に保管されています。

148ページにわたる冊子には、当時の鉄工所の様子や製品の解説が詳細に記されています。



10月27日

昭和天皇が江田島海軍兵学校行幸の際、YS-49ライトドリフターハンドセル搭載を天覧に供する。



2月15日

資本金130万円で株式会社山本鐵工所設立。本社を丸の内(東京市麹町区丸ノ内3丁目-8仲8号館第110号室)に置き、機械及びさく岩機及び付属品・部分品の製造販売。空気圧縮機及びこれらに関する一般工具、部分品の製造販売を目的として、個人事業として発展してきた経緯を承継して拡張の経営を画す。九州営業所を開設。



第14回 安全週間 (昭和16年)

日本鉱山会誌587号誌に山本さく岩機と製作についての記事(YS-49ドリフター)が掲載される。

YS-49ドリフター生産。

AH-22エアーホイスト生産。

CC-11ストーパー生産。

1934
昭和9年

1935
昭和10年

1936
昭和11年

1939
昭和14年

1940
昭和15年

1932

日本窒素火薬(旭化成)、
ゴムダイナマイト生産。

東洋工業
さく岩機生産開始(S49・R39)。

1937

大同製鋼、中空銅生産。

北越工業、コンプレッサー生産。

関門トンネル(昭和12年~)



L-54ブレイカー



P-38A ピックハンマー



YS-49 ドリフター



AH-22 エアーホイスト

Column はじめての国産化さく岩機

岡山県高梁市にある吉岡(吹屋)銅山 笹畝坑道。三菱金属株の経営により、自家発電所を設け、さく岩機を使い精錬等の作業を機械し、日本ではじめて洋式溶鉱炉を造り、日本三大鉱山のひとつとなりました。そこで、ヤマモトとしてはじめての国産化さく岩機が試験的に使用されました。試験結果は好評価で、以後日本の大手鉱山で使われるようになり全国へ広まって行くのです。



1944-58

Company History

社 歴

第二次大戦中

軍需省と海軍の管理工場となり、第11海軍航空廠の航空機の部品製作。
 学徒挺身隊を受け入れ昼夜兼行の操業となる。
 さく岩機関係は昭和16年11月11日に商工省告示により、公定価格が設定され
 材料等も業界生産量への割り当てとなる。(さく岩機懇話会)

昭和18年4月 軍需省管理工場。
 昭和18年10月 海軍管理工場。



東京駅前の丸ビルを中心に南北に広がる丸の内ビジネス街

丸の内ビルディングに本社移転
 (東京都千代田区丸の内
 2丁目4-1丸ビル762区)。
 念願の丸ビル入居を果たし
 真の創業発展を図る。

AH-36エアーホイスト、
 R-39シンカー、
 D-89ドリフター生産。

N-75ドリフター、
 N-74ドリフター生産。

DA-35ドリフター、
 BUR-430シンカー、
 JA-45シンカー、
 S-55シンカー生産。



東城工場 旧正門前

昭和24年9月15日統制解除となり、
 10月1日各社価格を設定する。航空機部
 門を閉鎖。戦後復興の最優先事業、エネ
 ルギーの確保で岩鉱の需要に支えられ増産。
 国土開発の全国建設工事にさく岩機の
 開発へと発展する。

1944

昭和19年

1946

昭和21年

1947

昭和22年

1949

昭和24年

1950

昭和25年

業 界 歴

昭和18年4月 軍需省管理工場。
 昭和18年10月 海軍管理工場。

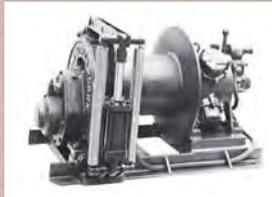
昭和20年9月
 ヤマト式さく岩機及び
 エアーホイストの生産再開する。

中国化薬設立。

東洋工業
 TY24を生産。

花山ダム(昭和25年~)。

製 品 歴



AH-36エアーホイスト



JA-45シンカー



N-74ドリフター

Column 丸の内ビルディング

創業当時の理念である海外進出を実現するため、創業者山本集一の念願の当時日本
 で最大のアピールカにあった丸の内ビルに本社を構えることとなりました。戦時中
 で国の統制化の中、海外機種名で各社共同制作していたさく岩機を各社同時の機種
 名・技術で将来の発展を図り新機種開発に取り組んでいました。





消火訓練の様子



CD-3 カタログ

九州営業所 福岡市の正金ビルに移転。
 日本開発機製造との提携。
 ワゴンドリル DW-30 YD-50搭載。
 提携先の日本開発機製造は元々は三井造船日開工場が前身であり、三井の力を利用して発電用ダム・発電関連ダムの事業を行っていた。
 利水事業者である電源開発(株)にデモ・アピールし工事採用を認められ、各地の工事に採用された。
 YD-60ドリフター生産。

YD-50ドリフター、生産。

資本金520万円に増資。
 高知営業所開設。
 PFパワーフィード
 スライディングプセル生産。

東京流機製造と提携し
 国産クローラドリル
 CD-3(YD-80搭載)
 生産開始。
 YD-80ドリフター、
 YD-55ドリフター生産。

6月
 仙台営業所開設。
 3LNフィードレグ、
 YS-13ジャックハンマー、
 YS-23ジャックハンマー、
 YS-30ジャックハンマー、
 YD-47ドリフター生産。

5LN・5LS
 フィードレグ生産。

1953
 昭和28年

1954
 昭和29年

1955
 昭和30年

1956
 昭和31年

1957
 昭和32年

1958
 昭和33年

1951 1952

北越工業 AM105
 ポータブルコンプレッサー生産。
 東京流機製造設立。
 建設機械製作所(東京流機)。
 KMIワゴンドリル(東洋TY44搭載)生産。

日立製作所
 バランス型
 コンプレッサー生産。

山王海ダム、田子倉ダム、
 奥只見ダム、神鋼釜山、
 佐久間ダム(昭和28年～)。

田子倉ダム、秋葉ダム、
 奥只見ダム(昭和29年～)。

黒又川第1ダム
 (昭和30年～)。

三井精機ローターベン型
 ポタコン PV75生産。

五十里ダム、
 大河内ダム(昭和31年～)。

東京流機製造
 CD-3クローラドリル
 (YD-80)

土津川 大林、
 関門国道トンネル、
 畑薙ダム、牧尾ダム、
 川俣ダム、胎内第二ダム
 胎内第一ダム
 (昭和32年～)。(昭和31年～)。



YD-60 ドリフター



YD-50 ドリフター



YD-80 ドリフター



YS-23 ジャックハンマー

Column

各社同時の新機種開発の中で、当社も国産ワゴンドリル搭載の YD-60ドリフターを開発しました。現在にも名を残している YS-13JH、YS-23JH が世に出ました。更に YD-80ドリフターは空圧式国産最大型ドリフターで、ワゴンドリルに搭載され黒部ダム工事の花形となり、ダム工事には必須の穿孔機械となり活躍しました。



1959-74

Company History

社 歴

YS-20ジャックハンマー生産。

東海道新幹線トンネル工事が始まり、従来の大型ドリフター搭載のジャンボに代わり小型レッグドリル搭載のジャンボにより施工され、YS-23LD・YS-20LD が採用され活躍した。

YS-14 ジャックハンマー、
YS-14LD レッグドリル、
YS-20LD レッグドリル、
YS-23LD レッグドリル生産。

YD-9ピックハンマー生産。

6月
資本金1560万円に増資。
石材関係からの受注急増。

YH-3エヤホイスト、
YC-6ピックハンマー、
YD-135ドリフター生産。



CD-5カタログ

韓国石炭公社 (YS-23LD)
台湾 (YS-30) 向輸出好況。
石材碎石の小型機の旺盛な需要有。
東京流機製造と提携
CD-5 (YD-135ドリフター) クローラドリル好評。
YS-11ジャックハンマー生産。

YS-73LD
レッグドリル生産。

1959
昭和34年

1960
昭和35年

1961
昭和36年

1963
昭和38年

1964
昭和39年

1965
昭和40年

1962

業 界 歴

下久保抱ダム、黒4ダム
(昭和34年～)。

矢木沢ダム、奥只見ダム、
黒又川第二ダム
(昭和35年～)。

古河さく岩機設立。
只見ダム(昭和36年～)。

東洋工業
TYCD1クローラドリルを生産。
日本インガソールランド設立。

神戸製鋼所 ポタコンスクリュウ KIS150生産。
日本開発機 GD40クローラドリル(大成 PR123)、
古河さく岩機 中国向輸出開始。

東京流機製造 CD-5クローラ
ドリル (YD-135) 生産。
東洋さく岩機設立
(マイト岡西合併)。
古河鉱業 CRD8クローラドリル
(8200D) 生産。

新丹那トンネル、
新清水トンネル、
東京オリンピック
(昭和39年～)。

日新ダム、
大雪ダム、
草木ダム
(昭和40年～)。

製 品 歴



YS-23LD レッグドリル



YD-135 ドリフター



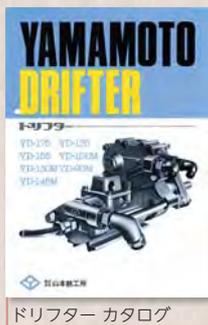
YS-11 ジャックハンマー

Column YC-6

新幹線工事が始まり、岩質は軟岩だと予想しYS-20LDを投入するも硬岩だったため苦戦。当時の設計部門の技術力を結集しN-23LDを最短で完成投入しました。その後の競合で評価を高めていきます。

その他にも石材関係のチップングハンマーを改良した新開発のYC-6はJHを含め全国シェア70%強を占め、その評価は韓国台湾関連輸出の拡大にも貢献していきます。





アルミ精錬関係にルートが開ける。
 YD-60CB クラストプレーカー生産。

山陽自動車道・山陽新幹線が活況。

YD-155ドリフター、
 YD-145ドリフター、
 YS-77LD レッグドリル生産。



YD-175ドリフター

6月
 資本金3120万円に
 増資。

8月
 三菱金属と
 販売代理店契約

6月
 資本金3588万円に増資。
 化学工場向けのパーカッションドリフターを実用化。

YD-60PD パーカッションドリフター
 (日本カーバイト他)、
 YD-105ドリフター、
 YD-90M ドリフター生産。

6月
 大阪営業所開設。
 YD-100M ドリフター、
 YD-175ドリフター、
 YD-130M ドリフター生産。

YD-80PD
 パーカッション
 ドリル
 (電化青海 他)生産。

1967

昭和42年

1969

昭和44年

1970

昭和45年

1971

昭和46年

1972

昭和47年

1974

昭和49年

1968

北越工業
 ポタコンスクリュー型
 生産。

北越工業 スクリュー
 コンプレッサー生産。

東京流機製造
 CD-8クローラドリル
 (YD-155)。

1973

三井精機コンプ販売、
 小松製作所譲渡。

新清水トンネル
 (昭38~42年)。

川治ダム、漆沢ダム、
 美唄ダム、滝沢ダム、
 三保ダム、早出川ダム
 (昭44年~)。

大黒谷ダム、野花南ダム、
 山陽新幹線、滝ダム、
 東郷ダム、多々良木ダム、
 新冠ダム(昭45年~)。

青函トンネル開始、
 六甲トンネル、下湯ダム、
 奥三面ダム、宮ヶ瀬ダム
 (昭46年~)。

奥野ダム、沼田ダム、
 桐生川ダム、
 手取川第二ダム、カツサダム
 (昭47年~)。

玉原ダム、
 青函トンネル本格化、
 味噌川ダム、荒川ダム、
 愛別ダム、新開門トンネル、
 高見ダム、温井ダム
 (昭49年~)。



YD-155 ドリフター



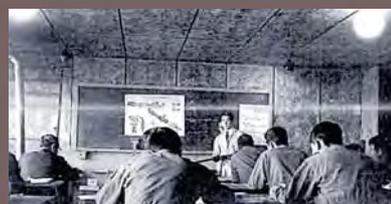
YD-90M ドリフター



YD-130M ドリフター

Column 陸上自衛隊での講習会

昭和40年代前半、陸上自衛隊にYS-23一式が納入されました。
 航空自衛隊を含め納入後は各地で講習が実施されたそうです。
 写真は茨城県古河駐屯地での講習説明会です。



1975-88

Company History

社 歴



大型油圧割岩機ビッグガー

大型油圧割岩機ビッグガーの開発、油圧ドリフターのシリーズ化に入る。山本博介会長、泉周市社長就任。
YH-1500A 油圧ドリフター、YH-30油圧ドリフター、YH-400油圧ドリフター、生産。

油圧ドリフター初生産(YH-60)。油圧ドリフターの開発は IR のクローラドリルの開発と共に技術の革新につながり、大口径のさく孔が可能となる。大型油圧割岩機ハンディクローラ等、多様化に発展する。
YH-60油圧ドリフター、(CDH-750・CDH-850油圧クローラドリル)、YB-35ブレーカー(海外向)生産。

山本集一会長、山本博介社長就任。

7月16日
創業者である山本集一会長逝去

4月
札幌営業所を閉鎖し、仙台営業所を担当。

YD-90M(CD-2搭載)、IR 社へ20台/月のペースで出荷。韓国石炭公社へ、YS-23LD 1,000台出荷 11月完納。

Z91ブレーカー生産。

1975
昭和50年

1976
昭和51年

1977
昭和52年

1978
昭和53年

1979
昭和54年

1981
昭和56年

1980

業 界 歴

インガソールランド社 東京流機製造へ40% 資本参入しグループに収める。川崎重工業 ポーラロータリー TCD221 1号機。

荒砥沢ダム、三国川ダム、緑ダム、秋芳鉱山、奈良俣ダム、東荒川ダム(昭和50年～)。

日本発破工事協会設立

恵那山ダム、月山ダム、玉原ダム(昭和51年～)。

関越道、山瀬ダム、忠別ダム(昭和52年～)。

川崎重工業 ポーラ国産 KRD110型 青海 東京流機製造。CDH-750(YH-60) 油圧クローラドリル生産。

東谷鉱山、豊岡ダム(昭和53年～)。

朝里ダム(昭和54年～)。

小松製作所 BC100油圧クローラドリル生産。

蛇尾川ダム、今市発電所 津久見(昭和56年～)。(昭和55年～)。

製 品 歴



YS-4 ルートハンマー



YH-50 油圧ドリフター



CDH-700C クローラドリル

Column 油圧ドリフターの開発

USA IR ジャパンとの取引開始。それに伴い空圧ドリフターの国内外への出荷が急速に増加しました。創業者山本集一の念願であった海外への進出が更に大きく実現します。その過程で世界市場要望が油圧ドリフターの開発となり紆余曲折の問題を解決しながら1号機 YH-60油圧ドリフターが完成。その成功は信頼の絆となりシリーズ化を広げて行きました。





ヒューム管 油圧穿孔機

YH-1500油圧ドリフター、
 YH-650油圧ドリフター、
 YH-450油圧ドリフター、
 YH-50油圧ドリフター
 (CDH-700C クローラドリル)生産。



CDH-700C
 カタログ

国内各地の上下水道整備が施工され、特に関西・中国地方におけるクボタ建設と関東・東北地方における三井建設との結びつきがあり新開発が行われた。

YS-4ルートハンマー生産。

2月
 香港向 YH-30ミニジャンボ 西松平塚センターで完成。
 YH-65 油圧ドリフター (CDH-900油圧クローラドリル)生産。



YH-30ミニジャンボ

急テンポに変転する需要に合わせ新たな開発力を得て、法面ロックアンカーせん孔装置、製鉄アルミ精錬等の産業機械、上下水道・小断面トンネル掘削装置、多機能せん孔機等々、総合システムメーカーへの脱皮をはかる。

6月5日
 山本博介会長逝去

6月
 YH-65RP 逆打ドリフター、
 東京流機逆打ドリフター搭載
 クローラ実用化。

本社丸ビル内
 604区に移転。

三井鉱業所、
 自走式油圧ユニット
 YH-10LD を実用化。
 YH-35L 油圧ドリフター
 (CDH-630C クローラドリル)、
 YH-95油圧ドリフター
 (CDH-951C クローラドリル)、
 生産。

1982

昭和57年

1983

昭和58年

1984

昭和59年

1985

昭和60年

1986

昭和61年

1987

昭和62年

1988

昭和63年

東京流機製造
 CDH-700C コンプレッサー
 内蔵クローラドリルを生産。

早池峰ダム
 (昭和57年～)。

川崎重工業
 ロータリッドリル
 KRD50国産。
 東京流機製造、資本100%
 インガソールランド社
 に譲渡。

滝根鉱山
 (昭和58年～)。

東京流機製造
 CDH-900C コンピュータ内蔵クローラドリル。
 古河鉱業
 コンプレッサー内蔵シリーズ HCR-C180・HCR300・280。



YH-35L 油圧ドリフター



YH-95RP 油圧ドリフター



YH-65 油圧ドリフター

Column ビッガー開発について

昭和50年代、さく岩機で穴を穿孔し発破で破砕するのが主流でしたが、発破が使用できない場所では、時間を要する静的破砕剤や騒音・振動があるブレイカーを使用していました。そんな時、取引先より割岩機の試作機を紹介され、改良・開発し商品化されたのがビッガーです。すでに海外メーカーの割岩機がありましたが、小型のため大きな現場には向いておらず、その割岩機よりヤマモト製の方が大きいので、BIG よりさらに大きくという意味で「BIGGER」と命名。以後、無発破・無振動で破砕処理が可能になり、使用現場の範囲が広がりました。



1989-2000

Company History

社 歴

会社設立50周年。
製鉄関係新分野本格化。
旭化成と共同出資によりサン技研設立、拠点を東城に置く。
財団法人石炭技術研究所とエマルジョン作動油により作動するYH-10BLDを共同開発。
北海道・九州の炭鉱に納入使用する。
YLD-90エアードリフター生産。



1989 会社設立50周年

サン技研業務開始

新製品の開発・新分野への進出も模索。

YH-10M2小型油圧ドリフター(HCD-101)、
YH-70油圧ドリフター(CDH-831クローラドリル)、
YH-80油圧ドリフター(CDH-931クローラドリル)、
YHG-630K(YHG640K)(HRP100DC カノボーリング)、
YHG-510(HGSS 利根)生産。

3月

資本金8532万に増資
(旭化成株増資引受け)。

3月11日

東城工業団地を購入、
重機工場建設操業。

5月

泉周市会長、山本勝俊社長就任。

CADを導入、設計の革新、開発部門を強化。

世界初の油圧高炉出銑口開孔装置共同開発に成功。

製鉄関連設備、ダイオキシン対応ゴミ溶融炉出湯装置等、
新分野の拡充を図る。

YH-80V油圧ドリフター(CDH-912Cクローラドリル)、
YH-100油圧ドリフター(CDH-951Cクローラドリル)、
YHG-110V油圧ドリフター(YRP-110VKT産業機械)、
YH-180RP 出銑口開孔機生産。

YH-55油圧ドリフター(CDH-821Cクローラドリル)、
YH-110V油圧ドリフター(XL-700USAクローラドリル)、
YHG-80V油圧ドリフター(GEOKID COPアンカードリル)生産。



CDH-821C
カタログ

8月25日

サン技研解散。

ロックスジャパン設立。

YHG-560油圧ドリフター
(HGSS アンカードリル)、
YHG-80VS油圧ドリフター
(GEOKIDKIDLP)生産。

1989

平成元年

1990

平成2年

1991

平成3年

1992

平成4年

1993

平成5年

1994

平成6年

業 界 歴

マツダアステック設立。
マツダアステック
THCD-650C(TH-501)。

伊佐 苅田鉱山
(平成元年～)。

IR 東京流機製造
DML ロータリードリル。

秋芳鉱山
(平成3年～)。

IR 東京流機製造
DM25SP ダウンザ(130mm)。

岐阜鉱山
(平成4年～)。

IR 東京流機製造
DMM2(251mm)、
DM45(ダウンザ165mm)。

鳥形山、唐沢鉱山
(平成5年～)。

古河機械金属
HCD12-DS 生産。

製 品 歴



YH-10M 油圧ドリフター



CDH-951 クローラドリル



YH-55 油圧ドリフター



YHG-560 油圧ドリフター

Column 製鉄所向けの油圧式出銑口開孔機開発について

製鉄所の高炉(Blast Furnace)内に溜まった銑鉄を排出するための出銑口開孔機は溶銑を浴びる環境のため安全面から空圧ドリフターが採用されていました。炉前での空圧ドリフターによる開孔作業は3Kを象徴する職場であり作業への負荷が大きく長年改善が望まれていましたが限界がありました。そこで熱環境でも使用可能な難燃性作動油での稼働と硬いマッド材への安定した迅速穿孔を可能とした高性能油圧ドリフターを試行錯誤しながらカバー形状、ツールの伝達効率を考えたジョイント方法等を開発し、合わせてその作動の自動化システムも開発しました。この技術が大手鉄鋼メーカーに採用され信頼を得ることで、これを基盤に現在は製鉄所内での熱間での稼働設備や省力化に起因する設備のソリューション会社として貢献し信頼されています。



YH-135油圧ドリフター (ECM695USA フローラドリル)、
 YHG-640K ドリフター (YRP640KT 産業機械) 生産。



小型アタッチドリル
 阪神淡路大震災 復興機



YH-10ハングドリル
 阪神淡路大震災 復興機



天井穿孔ストーパー
 阪神淡路震災復興機

2月5日
 泉周市長逝去。

8月8日
 社名をヤマモトロックマシン株式会社に変更。
 本社を丸の内2丁目東京ビル 263区に移転。
 3DCADを導入、設計の革新、開発部門を強化。



社名変更記念式

法面せん孔機、油圧立坑機、
 ゴミ熔融炉開孔機の開発が
 主力を呈して進行。

YLD-90RL ライトドリフター (ARD-90RL AD ドリル)、
 YH-55UG 油圧ドリフター (YHMJ-3800ジャンボ) 生産。

重機工場地内に
 さく岩機テスト場が完成し、
 油圧ドリフターの
 安定供給に寄与。

YHS-150A 油圧ドリフター
 (産業機械) 生産。

特注機部門の本格化。
 産業機械部の充実化。

1995

平成7年

1996

平成8年

1997

平成9年

1998

平成10年

1999

平成11年

2000

平成12年

東京流機製造の社名が
 インガソールランド社となる。
 DM45E (152mm) ダウンザ、
 D25SPE (130mm) ダウンザ、
 T4BH (165mm) ダウンザ、
 CM695D (105mm) ダウンザ。

田海鉱山、青海鉱山、
 戸高津久見鉱山、
 香春鉱山 (平成7年～)。



ガス化熔融炉開閉機

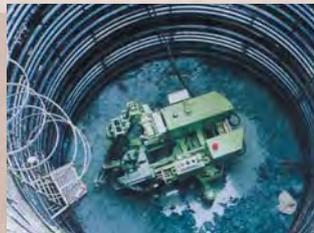
IR CDH-821 (YH-55)、
 CDH-831C (YH-70)、
 モンタペール HCR120R、
 クローラドリル生産。
 XL635 (HCR120R) クロー
 ラドリル生産。

IR DW25SP
 ドリルマスター。

土佐鉱山 伊吹鉱山
 (平成9年～)。

IR XL525。
 古河機械金属 ROBOROCK HCR90X
 HCR12DX 羽鶴・
 塚田陶管 HCR15ED。
 IR DMLSP (152mm) DM25SP。
 マツダアステック
 アステック販売を吸収一体化。
 大成さく岩機、会社整理 (70年)。

奥多摩 青海、住金八戸、
 秋芳鉱山、土佐山鉱山
 (平成10年～)。



油圧立坑穿孔機

マツダアステック TCD928H
 IR DM25SP (130mm)、
 DML-HP (203mm ダウンザ)。

青海鉱山、嶺朗鉱山、
 相生資源開発、田海鉱山
 (平成7年～)。



YH-135 ドリフター

Column 社名変更

永年親しまれてきた社名「株式会社山本鐵工所」が現在の「ヤマモトロックマシン株式会社」に変更になりました。創業から81年経過しての大きな変革でした。

記念式が行われ、従業員に現在では珍しいテレホンカードが配られました。



2001-14

Company History

社 歴



富士ビル

10月
本社を丸の内3丁目
富士ビル713区に移転。

特注機・製鉄向け韓国・中国・台湾へ営業開始。
小型さく岩機の海外受注期待。
YH-25RP 油圧ドリフター生産。

マツダアステック解散後の
製造業務を引き受ける。

YRD-90500エア-油圧ドリフター
(YARSD-90500AD)生産。

YRD-100500
エア-油圧ドリフター
(YRDSD-100500AD)
生産。



キャビテーション洗浄車 1号機

NEXCO 西日本より
トンネル用大型キャビテーション洗浄車
1号機を受注納入。
2・3号機の確定。

ISO9001認証を取得
し生産体制の向上を
図る。

YRD-9015エア-軸心型
ドリフター(法面AD)、
YH-70UG トンネル油圧
ドリフター(THMJ-3900N
ジャンボ)生産。

2001
平成13年

2003
平成15年

2004
平成16年

2005
平成17年

2007
平成19年

2008
平成20年

2002

業 界 歴 ・ 出 来 事

IR T4BH (165mm) 戸高津久見
DM-M2 (251mm) ロータリーD 鳥形山。
古河機械金属 DTR38 ホイール式ダウンザ (203mm)、
DCR38T ダウンザ (156mm) 願寺鉱山。
マツダアステック 11月1日付けで
サンドビック・タムロックジャパンへ譲渡 (67年)。

IR DM45E (165mm) 尻屋鉱山、
DML-SP (156mm) 秋芳鉱山。
古河機械金属 HCR1500VWV 日鉄船尾住金八戸、
HCR1500D20 (6m ロッド) 藤原鉱山。

峯朗鉱山(平成13年～)。

IR XL660 戸高津久見・
願寺・重安・尻尾鉱山。
インガソールランドドリル事業
本部を売却し、7/1付けでアトラ
スコブドリリングソリューション
事業部として発足。
古河機械金属 HCR1500D20
田海鉱山、HCR1000DS
武甲鉱山。

古河ロックドリル発足。

新潟県中越沖地震発生。

国内最大級のダム
徳山ダムが完成。

徳山ダム(平成17年～)。



YH-25油圧ドリフター



YRD-100500油圧ドリフター



YRD-9015エアドリフター

Column キャビテーション洗浄車の開発

キャビテーションは、49MPa と言うとても高い水圧で作用します。従来は壁面の劣化塗料の剥離、トンネル等の煤けた壁面の清掃、落書きの除去等に使用されていましたが、平成16年度、日本道路公団の委員会ではキャビテーション技術を活かしたトンネル照明の清掃を提案しました。その結果、今までブラシ清掃等の低速で行われていたトンネル清掃が、世界最速の時速50kmで行うことが可能となり、渋滞の回避や清掃時間とコストが大幅に削減。ネクスコ3社とメンテ会社に納入され現在も全国のトンネルで活躍しています。

今までのさく岩機等の技術とはまったく違った、新たな分野への挑戦となりました。





LD-9010VR-46エアライトドリフター

チョンジン社との油圧ドリフター取引開始。

今後の各国への拡販を期待する。

YHG-110VS 油圧ドリフター (転炉開孔機)、
 YBTD-300ドレッサ (TD ドレッサ)、
 YHP-20油圧ドリフター (高圧タイプ)、
 YD-135B ブレーカー (鍋整備機)、
 YSLB-100ブレーカー (地金除去装置) 生産。

YRD-100125エアードリフター (YRD-100125アンカー D)、
 YH-200油圧ドリフター (JD-1500クローラドリル)、
 YH-135油圧ドリフター (JD-1500クローラドリル) 生産。

3月11日発生の東北地方太平洋沖地震による福島第一原子力発電所の除染作業に、ヤマモトロックマシンのキャビテーション洗浄車が活躍した。

YH-7011油圧ドリフター (クローラ JD-800)、
 LD-9010VR エアライトドリフター (独立回転 法面せん孔機) 生産。

アトラスコプロ社向け KOP-1540油圧ドリフター (T25DC 油圧クローラ) の生産開始。

大型キャビテーション清掃車の納入実績拡大。

チョンジン社油圧クローラドリルの輸入・国内販売。

大震災の復興は他地方にも影響を及ぼし防災的建設の実施で活況。

YH-10M3 (22H108) 油圧小型ドリフター生産。

アトラスコプロ社向け KOP-1750油圧ドリフター (T30DC クローラドリル) 生産開始。

油圧ドリフターの納入がクローラドリルメーカー

3社となり、ますますヤマモトロックマシンの

高度な技術が望まれ、更なる技術開発をすすめ

顧客満足度を高める方針を推進する。

YH-7011UG油圧ドリフター

(THMJ-3900Nジャンボ)、

YHS-120油圧ドリフター (出鉄鋼開孔機)、

YS-10/01シンカー

YH225油圧ドリフター (JD1500クローラドリル) 生産。

大型油圧式岩盤破碎機

(ビッグアー) の海外販売拡大

地盤改良機搭載の

大型ドリフター生産増加

2009 平成21年

2010 平成22年

2011 平成23年

2012 平成24年

2013 平成25年

2014 平成26年

浅間山噴火。
 桜島 爆発的噴火。
 国際宇宙ステーション「きぼう」完成。
 国土交通省 ダム事業一部凍結を発表。
 伊勢自動車道 大宮大台～紀勢大内山開通。

東北新幹線 八甲田トンネル供用開始。
 鳥取自動車道 全線開通。
 東京国際空港 D 滑走路完成。

東日本大震災発生。
 九州新幹線 鹿児島ルート全線開通。
 道東自動車道 穂別トンネル完成供用開始。

東京スカイツリー竣工。
 東北自動車道 あつみトンネル開通供用開始。
 新東名高速道路 御殿場 JCT- 浜松いなさ JCT 間他開通。
 当別ダム完成。

松江自動車道 大万木トンネル開通供用開始。
 松江自動車道全線開通。
 胆沢ダム竣工。

鴻池組・古河ロックドリル・マックが共同開発した全断面自動追尾式穿孔誘導システムが九州新幹線のトンネル工事に導入。
 舞鶴若狭自動車道 全線開通。
 ハッ場ダム本体工事開始。
 リニア中央新幹線 (安全折戻式) 建設発表。



熱間地金除去装置 (TML 式)



JD-800クローラドリル

Column 東日本大震災

2011年3月11日、東北地方一帯が太平洋沖地震によって発生した東日本大震災で大きな被害を受けました。仙台営業所も罹災しましたが、各営業所より多くの救援物資や義援金が送られ、従業員の絆が強まりました。その後、営業職員の努力により3か月後の6月には全員揃って営業を再開することが出来ました。写真は、震災の経験を形に残すシンボルの「千年希望の丘」です。

